

番組審議会

第693回

2025年5月19日

■ 審議会の構成

出席委員数 10名

委員長 音 好 宏

副委員長 江 澤 佐知子

委 員 川喜田 尚 田 中 東 子

谷 本 歩 実 洞 口 依 子

長 嶋 有 二 関 辰 郎

水無田 気 流 目加田 説 子

TBSテレビ 龍 宝 社 長

合 田 専 務

井 上 取締役

三 城 コンテンツ戦略局長

谷 澤 情報制作局長

福 島 情報二部長

高 成 「ひるおび」金曜プロデューサー

藤 田 編成考査局長

浜 崎 カスタマーサクセス室長

満 田 番組審議会事務局長

■ 議事概要

1. 審議事項

(1) 「ひるおび」(午後枠)

5月2日(金) 11:55～13:55放送

(2) その他

2. 事務局報告事項

(1) 視聴者からの声

(2) 次回審議会の議題及び日程

【審議番組について】(「ひるおび」午後枠 5月2日放送分)

今年放送16周年を迎えた生放送の帯番組「ひるおび」。午後枠はその日の最大関心事と向き合いながら、2時間で3～4本のテーマをスタジオショー形式で展開。テーマごとに専門家の解説を交えながら時間をかけて掘り下げ、生活に役立つ情報を伝えている。

審議対象回に扱ったテーマは4本。①「天気」 ②「大阪・西成で児童7人が車にはねられる」 ③「日米関税交渉“ラウンド2”」。

そして④“地球を笑顔にするWEEK”連動企画「デフサッカー(聴覚障がい者サッカー)から考える、スポーツのダイバーシティ」では、「ひるおび出前授業」としてデフサッカー日本代表選手を講師に招き別スタジオから生中継。港区の小学生たちがデフサッカーを体験、「インクルーシブ教育」について考えた。

【委員の主な意見】

- ネタの流れ、構成がよかった。ながら見できる番組なのに情報は適度に取りえる。つくり手側も、生放送の利点をきちんと生かしていかなる情報も瞬時に入れることができる対応ができていた。
- 現場からの中継を大事にしている。ある種の臨場感があって、「ひるおび」のいいところだと思った。
- 気象予報士のアナログな解説はほっとするつくり。ただ予報が東京に偏り過ぎていたのが気になった。ゴールデンウィーク中で遠出する方も多かったはず、もう少し全国を俯瞰したらなおよかった。
- 司会者と気象予報士の掛け合いは面白いが、予報士の解説の途中に司会者が割って入ると話が飛んでしまいわからなくなる。解説は一通り聞きたい。
- 西成の事件で、目撃した小学生がインタビューを受ける映像が流れたが、生々

しすぎて耐えられなかった。取材に答えた小学生が記憶を鮮明に刻み込んでしまうことでのフラッシュバックやP T S Dが気になった。

- 日米関税交渉について、「オールジャパンでやっている」「よくやっている」と肯定的にコメントしていたが、外交交渉はわからないことが多い中、褒めるだけでなく多角的視点を提示する観点がもう少しあってもよかった。
- 生放送でデフサッカーのミニゲームを紹介するにあたり、相当シミュレーションしたのだろう。収録して放送するのとは伝わり方が全く違う。苦労があらわれていた。
- 「今からデフサッカーをやりますよ」と言って始める番組ではなく、「ひるおび」のようなゆるっとした気持ちで見ている午後の時間帯にこそ、このような試みが入ることに意義深さを感じる。
- 講師を務めた松元選手の手話の部分にテロップが重なっていた。番組に膨らみを与えていた、重要な部分を占める手話が隠れていたのは残念。
- インクルーシブ教育を掲げて国籍、人種、性別などを含めての教育という話をしているのに、デフサッカーのミニゲームに参加したのは男児だけ。女児は拍手係のような扱いで排除的な印象を受けた。
- フィジカルコンタクトが女児には危険という配慮があったのなら「きょうは男子だけにトライしてもらいます」とちょっとでも触れてもらえたら安心して見られた。

【局からの回答】

- 西成の事件での子どものインタビューについては、視聴者からもいくつか指摘があった。前日に事件が起きてからこのインタビューは何度も使われており、若干風景化していたように思う。このまま使うことに対してのリスクヘッ

ジに思いが至っていなかった。

- デフサッカー体験が男児だけだったこと。実はこの日一番気にしていたのはデフの児童が一人もいないことで、そちらに気が行っていた。教育委員会を通して募集し企画に乗ってくれた子たちだったが、顔ぶれが男児ばかりだったことに正直思いが至っておらず、女児がいないことに対してもっと気を配るべきだった。